墨直集

完

耕月庵撰

墨直集

施主 濃州多藝社中

安政五戊午年三月十二日
雙林寺會式

定

一 宗匠 耕月庵 隨往 有山

一 執筆 茂左衛 大愚 雲洞

一 客對 雲水 紫好

一座配　　其遂
　　松夫

一書記　　雨桶
　　雪渓

一執事　　鳳枝
　　曙三
　　静和
　　梅若
　　松亭

以上

洛東金山かる仮名の碑ハ
入墨ハ金式ハるるもハ
東花先生の定めをかしー
後代ゝ和漢ハ師達を深く
信用ハり当ハそれ大ゝし
濃南多藝の連衆報恩乃
ため興行ハ表彰頒ハるより
之を金の風士ゝ文を以て告知せ

小倉山麓に家集舎あり其ハ
舊式に倣ひ法筵を設け
種こたをしむて碑前に踏
跡し恩徳を祝し奉る
水薬仙を以て墨とし
不易堂よ堂の金玉
徒多枯嘯る聲に積り
生酒並酒徳さ白く

耕月庵

梅巖
楓葉
坡竹

表家も方に無数蒔蕎麦ひて
松ふるいを文机に寄
月七夜色れと新の改さ
掛ふて稲れ植を俯く
彩ひ出お撰許せ村俳俊
莨い姿してる風雅を結
烟ふ松し公雲の近くと
筆禁北果も数乃富山

泊龍
花友
一畊
雨猶
雪渓
緑雲
紫好
如盛

無為の神著き、徳ありて　霞松
漸まるを待へ、怪夢ふかり　松夫
ふ都合も合羅此上の仙位居　才能
おく霧雲ハ宵ふきふめく　素山
更へるよ〳〵に月淋し清空　文士
情の籠を顧る秋　大愚
うつらうと猶の雑踏もこゝ　甚遊
眠う哭へやう起てり犬　五翁

梅散し後も餘香の打くふ　斗麦
細き、埋性ふ黄風北条　可水
ニヲ
後の施す麦飯に干菜汁　芦鴻
箇井の名花いつも清ら　蛙水
方便乃所法弘まる出世　芦蛙
男うんゝ云る産家賑ひ　花雪
かとゝ子ふ主てゝ手花菊を喜　其童
蓋吹拂ふ風の颯と　一松

鉄砲を撃て突然喚く者
多く汗かく怖しき夏
咏歌小稿乃出る分も疲労れ
分て丈夫い河内木綿の
ぬくしーと絡れむれる物凄き
只光陰の延て弱まれ
樓下身見を重て尚歯奮
粧ひ重る多石の山

支邦
矢川
其主
龍白
魯三
樂水
雪洞
文二

壁分泥洗ひくて紅葉の多かるこ
仕切れキ孔る米ふさす金
口まめか姫ハ(オバ)ゆること去(イニ)嫌ひ
あれハあるこの咒の妙
長崎ハ出屋て高めく石汐り
涙小丸北中喧いまこ
針の手を止て云ふか並へ猿
葛の葉表を返す風

蘿月
水也
魯竹
稍雨
梅梨
魯游
止三
五流

虹の橋の消てあり〳〵ぞ見る月　春和

ゑんせ〳〵恋も稲りかゝる世　一江

たの乳〳〵猪牟田添削の香ぶしに　如石

牛吼るたゝ不面く川越　一鋪

笑む花ふ鬚ふまうかる嵯峨の雲　里時

羽織かりてもゝ長い人おかミ　柳桂

三ノ

懐ろ重きハ鮭賣〳〵鮭　雑笛

赤の縫ひて菜家瓦家　亀歌

綿帽のふりも美方ぶ〳〵やうに　眺子

歌牟田油所祈らふ兄弟　一峰

隠す程呼くて忘の耳小り　晴湖

第も陣か掃除日光の　里仙

置てさ〳〵数の下蔭ハ墨も　如石

清水掬て粧きふ　雲湖

扇子ぶり雲扇の友九条の玄ケ　柳桂

祈禱かりたの廣ろ厳ろ　雪庄

噂まて流れとゝ（ナイ）し地震の力り
松子自由か浮さていある
抱ふふうまし木幡の月芽
私の宝さも たふけ長す
三ウ
打かゝと流れも 鶯茶栗浅茶
ちゝ おゝ しゝ 嵐の広く
琵琶法師 雅お子ふいうれ
抱子の姿あふ孫 偽る狩

除江
朝蛙
班坊
金車
知風
茶夕
朝後
遅栗

御城かゝ噂時の鐘尾を引て
子を勢めて〳〵松の枝亀
大年の相う大雪降積り
家祇を免て参詣る尾
長北漢る鍋管の喇笛を紙て巻キ
竹貝寄く浦の主 泡
計略ふ家も軍北一手私
酔ふハ笑悟て変る泡磐

魚道
有山
鄙芝
雲仙
其鶴
梅戸
此君
宗知坊

笠さゝる興ふかの底もぬけ　雨麦
羽をかゝせ死蝶のいつも　一茶
暖う形る程たまる洗いもの　梅坊
猶りとい〳〵と咎ふ也る　楠二
敷戸出の弱姫る松子まき　鳥石
姫まる蝕も濁ふ大敷に　里雀
沈んこる蕎界蟬も悲しうか　雲水
白粉ちふぬ多い化粧い板　路雨

送り芋の輪稲細い水地の低　曹得
夕立菊て車来く　琴也
ちふ〳〵と開く蓮北方〳〵と　里蕓
亭も人結掘の明掘　和光
解廻ふ急〳〵形ら一た傍雫　自笑
沼の埋れい畑を筆へる　白亀
象沼い五分月のさやけくて　鶯仙
いと〳〵静ふ衣うり言　迂江

ナウ

納ゝ家の脊戸ふ小菜の蒼む数　酒羅

芽　卦　ゆ　ゆ　重　き　行　縢　竹園

達者とも口十と家ル老仲ゴ　松亭

ゆ　ゆ　面　一　ゆ　り　何ル佛神　静和

宮　ま　く　ゆ　の　世　ん　ふ　涼ル　ゆ　き　曙三

百　催　ふ　重　時　て　さ　つ　ち　鳳扶

道　の　宮　代　く　ふ　者　く　咲　栄　一　故井

ゆ　一　者　の　恩　志　ふ　春　ゆ　年

右百韵　陶尾

列座各吟

菖蒲上や三見の旅芝居　長門福井　柳葉

竹北菜ふ懸ゆり夕暮　萩　蘿月

河の雲の内を越る帰り　備前ヨカ山　雪河

花北咲来も咲ぬ来ル淋ゆり　斗麦

宣病の名を忍ぶや梅雨　一口

蓬かゝ笑ひ初てや雪の富士　雑笛
宿うりてゝふ出る山や夕霞　晴湖
鏑流馬や霞きり〻の宮坊　除江
青〻麦ふ雲孫すやゝ子ゝき雲　金車
星ゝとゝ川ゝ分て流る花ゝ茶　朝良
初午や仏馬武者の五六人　珍今也
指ふれし孫りう浪ふ帆ゝ見　和光
遠ゝ見する鶴や長閑ふ里ゝ方ゝ　珊坊

ふ奥や日ゝ変する子に咲せたき　日釜　亀鈴
雪ゝ見て芽ふ立所の蕨茶　朝桂
春宮かゝ花岩や墓の風　周防上山　雲和
暁ゝ山ゝ鶏ふ戒の赤き夜ふ　土佐言知　止三
蕗摘ありて流ゝ出ゝり　霞松
振上る蕗の青ふる蕗の花　大川　如石
雛の日ゝ七ゝ草ゝや桃の花　洞龍
眺る日の夏に流ゝ二日夜　寸龍

財法ふ拔ふ法あり義の樣
冴き四の岸ふ振かし花莖
人の子を信て曙ふ出る二月武
小松引鶴の羽添て房りも
松の間や何ク降ても面白き
笑ふ山猿ふ沼の法ひ利
芹そく水ふ動くや月樓新
稻株ふ雲ふ立て芝に見

、知風
、白亀
、茶夕
、遼寥
、魚道（ヲヨカ）
、五禽（吉ハラ）
、鶴仙（赤ヲカ）
、酒盞（ヒ彼）

雲雨や竹かふ升ふ洒く雪
新蕨る青い面かり素の雪
取ひて土產ふ重一硯石
山吹や棧何ふ呉石
夏ク代や矣挾ふ曳風の糸
茅莖や昨日北面のぬ迷ふ
雪北狩ふ面する言葉ふ
底青ふすや雪解の根ふ

、雲仙
、賦子（スクモ）
、霜芝（ヤリ）
、里仙
、龍雨
、樂水
、此君（中ムラ）
、魯三

多行んとす小蕪や椿の花
菜の花や多くの人の顔取きり
町中小緑ちらり星の市
七草や鶴形小壁小掃きめ
長閑さや鳴門を舟の行交り
蓬莱や高砂の浦小高き山
蓬風や堤の五重小人の顔
板ふく音小動くや釣干菜

水也（弘ヨカ）
魯竹
可水（田ムラ）
雨麦（阿波ヤノシロ）
緑雲（小カタ）
坡竹
一調（トウシ）
文士（越前ミヤノ）

菜の花やうん矣小椿足す椿
、故井
暖や海士の子も出て砌小文字
、支邦
川岸のそんど定まも稀りり
、梅雨
梅ゝ雪や末下小清き流水
、里貫（村ノ上）
蓬莱髪や赤ふて思ひ豆
自笑（安サハ）
蕗の曝布重小及形ゝ冠
素山（越後ヒヤムラ）
海士ゝ子碓刻衣や素の風
其堂（マキムラ）
和ふ香新や陸子に春北月
五流（ツハメ宿）

孤梅や蒼のうちふ一下手梅　夢得
墓前や壁間北窓の濡雪　下総サクラ　桂水
風巾屋ゐや五七月の下　京　如盛
梨の花ゆや上ゐ女綱のぬし　楠二
紙衣や孫帽子著る嫁出察　三ノ糸サカ　芦岳
軒低き家ふ火を信る梅ゑ式　矢川
孫逐て少屋ふ家ふて雑子の群　市ハシ　如石
初桜日陰ふ只の梅かゞ　宗鈍

ゐて屋ふ動く事ゆり素の水　イゼ　文二
花の咲年寄日と八思ハ北に　梅戸
多北第や盛り水太る蝶の話　市元　楓琴
蝶くや茅ふ事ふハ茅ふ夢　大カキ　魯游
陽炎や風ふ流る炭柳原　一紫
積ゞ世て云る恋ハ部素の雪　花香
高足北鞠の梅を上ゐ李　ヨサ　里杏
月ゐふハ暗く夜て多一梅の星　十六　梅坊

風風〜蕾手の屈く極うか
遊ぶ日は佳く姫や和ちくら
雲やいつこ峰と花のよし北山
松桜二度に蕾りうなづ山
動く点の見ていは花月桂東
ぬき程北学履の上やぶ小雪
蕾て角〜たのしき月北桜式
茎水に手巻〜極き初紅ゑ

ハシツメ 其鶴
タカタ 鶴石
ヨコヒコシ 花友
ハンネ 梅岡
、紫好
ワケス 一松
、其圭
、極紅

和立の子も見捨ふ汝子式
日北陰を除て流る雪解東
屈曲の梅ふ解東茎茎枝うか
条乃東ふ茎程東き振の蕊式
大海の味恰ふ合ミ り利
流ふ〜る雲も長き根芹東
蝶ハ花を東い蝶とも花貝式
山吹や岩瀧を立る名ふ西北

ホクラ 雪渡
アーラ 松亭
下カサ 静和
、其遊
、芦鴻
舟ツキ 曙三
、雪水
、霜湖

鼻浮の鼻又出し一色ぬるゝ水　一峰
雨北極風乃芳のふゝかり　路雨
曙し山も聳るゝ〜きや蓋の雪　雪屋
醉顔〜雪とちるゝ〜夕櫻　松夫
森佳〜〜新と六月之新性　桜性
炉開や遊山ゝ人の足休色　雨桶
奏る茶北極ある世界櫻ゝ　竹園
学や鳴ぬ百ゝ羽さゝき　有山

偃ひく〜旅立鶴やゝ別れ哀　迂江
言の云ぬ溯ゝ北色や蓋の暖　大愚
世ゝ塵ゝ散て櫻の暖静　風夜
降ゝ雪て西方北数日ゝ新　里明
月絵ゝ石せんて小ゝ次ゝ広ゝ　一畊

花七日晴家ゝ人と遊ひ学　耕月庵

余興

人のゐさ情しるるや浚月橋　一畔
山し笑いさ含む　蕪　耕月亭
猫ホホ猫作せ一茶を試ミて　雲泊
強し展ぬやゝ多さ打ひてし　坡竹
鞠ゑ〜馬の歯つし赤ゝ婚数　静和
ウ
ちゝ北風し面す四ッ辻　大愚
象宜ホ嫁婦ホ新のさ一むひ　故井
ヒ一西風し紅ひ北色

ヒ条りゑ八方ゆと条哲利　雲溪
鬼角佛の汚蝿ひ八喰　五禽
鞠瓦て美病九ホちゝ一ホ　支邦
入梅時行て振支度する　緑雲
笑かゝに菖蒲刀し猫の扨　泊龍
公料ホ捌ホ一かき　梅岡
和田津海の面廣くと泳く浪　其遊
連ゝ小一分をかこつ不自由　紫好

姿見のうちさへ目ふかれ花ぞ
多ハ長閑ふ羽をかなすに　鳳枝
二ヲ
時出として稲荷の御輿翁哭　花友
義理のたゝる子を脊ナふ負る　雨楠
大釜に焚出粥の煙つくと　松天
義妹等請ふかるをあぶぬ京　雲松
嵯ハちゝと降て小雲の山　丈龍
お使ハ空ひ駕に乗ぶ北て　可水
路雨

嫁ーさも恵の冥加ふ新枕　一嶺
解て妹落のあきく紅葉の梅　松亭
帆ハ力かゝても淀のゆり舟　一松
根あらひ松の葉キ夕葉　鳥石
月の宮景子よ雲子とをてなて　曙三
百遍ゝて美ハ於恥らし　柳種
二ウ
緋威ハよりに深ハる壁の錦　雲水
放ハ弱の西ハ東ハ　其圭

八月の皇子が拔蛭に取かめる　竹園
賀茂かくしかたる樹立　霜溪
うるはしき花の余興の日の暖　文士
巳が字に回る盃しるふ　丈麦

太歌仙

諸國文音

雲のゐなを本こに含むや眺る山　長門萩　淇水

山は雪壁は葉の花の日和うれ　可喬
吹出る風は乃糸や雲の峰　花松
白梅の白ふ雲や浮船　都梁
流のゆ動きしやゝ空の雨　糸光尼
風や吹紅吹て　晩れ春　習古
名月や秋のちゝの居一所　茶山
風や澤泉揮北中　佳春
風徐芽かゝ芽に移る雲　鄙下

新暦北に寄し言一喜の雨
漸く晴たり多や夕時雨
孤梅の匂ひ降ぬ小雨哉
風雲すゝく流れやけの園
茅茨や何とも形一片潮り形
ヨケ入て又さき御方り菓畠
帳面や外に雛ふ庄北くと
百姓日や新まる愧の幾一所

、亀友
、雅交
、冨水
、囲水
、如仙
、其雪
、樂
、如柏

芦原や出多に鶴ふ鳴鉢
雲雀鳴や百の根き北て根ふ
菅屋に新し粉ふや松原
寄帯の砂に濡れぬ余宝ふ
稲妻と如まる〳〵の花火ふ
引汐の藻ふ包ひまる〳〵生海鼠ふ
山吉い雲に原一種の聲
繁に茎日に色奪いり

、夢水
、鬼遊
、可泉
、吐雲
、露秀
、文驢
、春鶏
、春畊

鬼ヶ城の風を吹越て雲雀哉

薫風や秋の松ヶ坂の二月堂

松風や津のりて月の澄東海

立ぬ木に春や春の雨

日の入ど細引をするや素ヶ浦

村雨や晴て梅の月夜哉

ウ田
登理

ナゴ
松梨

タマエ
幽草

フク井
棋徑

松聲

一樣

宙ヶ坊

行前
祖山美

ヨカ山
鶴棲

馬佛

子院

巴雲

子城

子脩

峨洋

杏壷

懸命の舞ふや弓射る春先

鈍ふき笠の陸ふて松ヶ岳

うろうろ山泡も素の光り哉

ちらくと毎ふい宮ー素の風

猿曳ヶ猿を上ぬ宮の森酒東

陸位い報子ヶ宮色や市の雛

浦風ヶ和ふきふり春ヶ唄

雨ふて七日過りや花の宿

月ふかるゆえて雛子の喰山路式　臥雲
松風を炉ふ雪売う子ぜ日久　千春
かい芸ぜ蝶の落り雲の雨　青嶋
徒歩や鶏木ゑる人乃新　秋浦
多多や何を雲うて濯く睿　出雲日記　幽川
孤梅や姉と咲るる花の色　里朝
等抜て鷹の目清し雲ぜ京　周防下名　雲和
走り矢ふ粉ひ出り藤の挺　土佐左川　月樓主

踏多く丈い石ゑり苔の花　如竹
河骨や舟かゞ伸す女ぜ子　桃水
樹や孫濯り梅雨の雲　李桃
駒多や匂ふの実ハ芸かゞ　如流
蔓ぜ初雪や義ふ根ゑ風　菓秀
達目かゞうかゞくつ笠の山　池柳
業とかりて風ふ骨かき柳式　梅女
時雨とも かりて蓑り暮の虹　淇仙

町中へ入ぬ京やゝ花莖
笑ーき壁を飲汚す社日式
関かゝ原に昭るし鳴田標
徒ゝ不乃巳女人や新酒ら儿
草却て出ぬ月も捨て孫生式
能ゝ儿い笑ふよ寒の海
ゝか一りて墓や西ゝ下ん富士ち雪
是てこそ英家ゝ儿初ちゝ下

童山 求我
、花仙
、其暁
カミノ 其舟
高ヲカ 一釣
、渓山
、里青
ワ川 清流

乃くの云の茶苦や木こち花
、橋隣
、芝蘭
拍舞ゝ手い懐ゝ多仙茶
京ち子の乃たこのゝ下ぬ莖茶
、可澄
ワジキ
宗一新隣のほゝや冬木立
、沢鶯
たゝゝ北睡たゝかす小懐ゝか
曲全
ヤス
山くの殿をゝ人せゝり残る雪
、一霸
あゝ全す貝や汐干ち小杯
三花
赤ヲカ
雪ゝ散桜の金而や只の白
、杜栄

日ふ光る若葉に雲は
橋に住む人草すて流る菜屑
今程は雲の下かり初雉
ちらしの出船は棹や芦の雲
流れ寄る若葉の上を流れより
苗代や新すすきに豊のお
灸すゑ子ふ持すや二日月
雲もまゝ子多るふ初る空と式

サコ 梅志
西ノゲ 延之
吉ハラ 鶴仙
入田 歩山
中ムラ 映雲
、軽舟
、其薫
、霞水

英しう時るや若草の野人とり
時雨時や日は暮れとる雲の穴
霞拂ふ袂い長し若草花
二なの須い椽乃先かり暮の月
三月や柳ちまうか人ハ
流れ木ふ亀の浮り蕗の水
撥ニ一竹白ふ霞東うか
羅多は二羽ふかる二月式

、魯樵
、逸閑
、茂山
、里仙
、竹渓
、元子
、若水
、魯道

蕎麦畑に落ち川をまたぐ
どんぐり拾ひ行く夜明の森　言知　蘭童
咲残り菊に昔の情さかり　中二
歌近く山地や松の秋の雲　名ハリ　益三
降雪に川しら松北嶺の雲　守中
下り上りして茅刈る梅の花　田ノ　其朝
根本より高北庭に高の高　ムロウ　魯術
菊殺て源氏の月を仰ぎ見る　阿波柿原　盧橘

石かほ形松の数霜の朝　越前ノ人　圓意坊
今朝ぬけ駆しる芝の式　其吹
東洋一の秋や解定に風の骨　雨橋
月先に月出を乱れすゝき舟　秀水
流石に蕎麦や富士の花の光　三ノ二　遊之
雑子の鳴谷の秋や雁の宮　越後北浮　百路
菜麦畑に菜摘や梅の花　宇久
関に居て振り地する紙の式　雪朝

流れを吹き川べりの蓼の風　遊曲
蓼小吹て実小散る鳴り家　秋風
稲葉や子を咏ーー　（下総サクラ）荞枝
日と迫て淡く木下や浮ーー　（尾張ミヤ）仙二
風の月や乱れき田も稲の波　楊園
秋澄や足洗す果い実と水　桐亭
延くの眠ふ忘むをや梨の花　（伊勢クスナ）里暁

南國近加

雨と雀鳴下ぬ松子や秋の音
吹立の戸障子澤ー秋ぬ風
麦秋や木陰ぬ宿の雨上ぬ
弱る月足て短夜と思ひ色　（ヤハタ）墨川
桂雪て白帆の影を消ひり　（シカノ）巨雪
峰暮かけて一聲杜宇　（欠ケ）石芝
夕月ぬ新稲よけて田草ぬ　（ヨリ）幾蒲
旅傍ぬ清ぬ散て苔ぬ小り　（名ノ）固雄
芦洲
其流
雲泉

白ふの時て遠ふ雲の山、移御
花咲しまも咲ぬまゝ拍野式、
油野して近ふて戻る時雨かな、桃里
日比新し宮家ふ照やゆの雲ムラ 魚青
力なる柳こゝ地ふ命 秋乃風、喜兎
晴かゝる雲や柳ふ動き初 大ノ一
雲退て遠山色ふ秋の秋 中モト一瓢
子ふ教へおしへて踊るおとり式 大ヒ 魚着

一ト森入ゝ涼鳴やきりゝ〻次
蓴や結ひし夏の見所、井園
蛍や笠ヶ旭ふすゝり所 小ヒ 蛍甫
見ルもの也知て聚ふ一蔵一水、雨翠
秋風や日ふゝ痩る柳の枝、東園
溢れ菜のもて笠咲新蝶香 セン 梅英
二日月ふ笑ふる紙ッこの南 ワジ 白路
苦麦ふ名や二月の新あゝ、細雨
イヒ 伏之

初やくと散る雪の梅東
風風て梅ゝ香うつる夜ふかき窓
ゝ数ゝ北ハ嶺ゝ香遍して惜一ツ
柳ゝ雲拾ふて花ハ惜の出る
笑ふ山の上ゝ清ゝ招ふ雲
ゝ春ふ霧の下り坂や招ふ草
青たゝて矣ハ東ふ窓和ゝ雨
五月雨や芦ゝ沼ゝ沈む桂ふ紅

、其月
、扶及　女　利花
　十七女　たう
　三人　佳招
、互春
、桃夢
、勿謂

陽光ふ昔思ふや平家塚
青空や月を種ゝて新の雲
逆ふ行ふ浪や笑ふ屋の思ひ
屋根浪中やこゝとく新の青
新風ふ古屋ゝ青ゝや霧時雨
梯隊ゝ東ハ風ゝ冬ふく木の実式
芋ゝやゝゝ里ゝ仲ゝ新雲
浪て新ゝ名ゝ笑ハ一ツ草の花

、竹甫　小ヤ
杜国
、琴雅　中ミヤ
東川　ヨナ今
、藪旭
笑山　大カキ
、梅居
、青士

滝を分て新緑なる新日うか
咲ぬるも至ハ志ゝ奴山家この邪
牛飼も牛ハ近るる日永哉
ぬるも寄るあふて徒に枕うか
云とり子ハ鳴ハく沼ゝ雲を開式
梅ハ小菊西く末や月 徘
聖修迄や写ハ寒キ草むら
溝出せハ私と足ゝ雲の名残

、以弓
、可習
、瓦村
、樂之（ガクデン）
、圓山
、如藩（タラ）
、破力
、竹里

浮雲を分ハ聲や杜宇
月ハ出ハむらひの雲や鳴鶉
去ハ行や峰の餘りを農と
ハ二庵ハ法ゝ奴く新やみの月
筏士のすけかく足ゝ山搖
拍手ハ雷ハ咲や福壽草
地ハ哲ま奴下狩ハ雷や空の又
渇うまも奈ゝて増ゝう玄の水

、夏峰
、助芸（タカス）
、愛竹
、月駒
、噪雀（タカタ）
、移之
、二畊
、芸心

遠金一所ハ琵琶の響や秋月
生垣の蔭ハ遠き隣ハ
ひつ以長吹て暮さを淡き窓
一雨ごとに雛に際よ一夜の月
星河る東を鳴ひらす手弓
素月や囲碁の音雪隠隣
敷寄やひらぬ眺めハ旭の昇り
巳五刻ハ左所の奥や琴の響

、竹窓
、牧水
、香風
、魯洲
、警川
、可眺
、松琴
、三渓

居所ハ分ひらぬ昇さ朱
山里ハ媚し白しや梅の芯
九重ハ都続きやハ重葛
五六丁ハ九寿や扇を椎
素雨や町を昇る私の家
飯たひぬ粗ゝ昔と宏清
桂雪や只も眺かる紛ひ新
汐上りの汗乾きひう夏の月

、車運
、業
、其心
、竹塚
、老山
、雪畊
、健女
、青柳

嫉妬や伊芋の咲ぬ間

行脚中 魯堂師

嗤笑弘需小庵一て醜

纂也配之書之

戊午秋八月

竹園生

蕉門書肆 皇都寺町通二條 備屋治兵衛梓